大妻神社と大妻太郎兼澄

—資料調査研究報告１—

Otsuma Shrine and Otsuma Taro Kanesumi
— Research report (1) —

真家　和生[1]，鳴瀬　麻子[1]
[1]大妻女子大学博物館

Kazuo Maie[1] and Asako Naruse[1]
[1]Otsuma Women's University Museum
12 Sanban-cho, Chiyoda-ku, Tokyo, Japan 102-8357

キーワード：大妻コタカ，大妻神社，大妻良馬，大妻太郎兼澄，後鳥羽上皇
Key words：Otsuma Kotaka, Otsuma Shrine, Otsuma Ryouma,
Otsuma Taro Kanesumi, Retired emperor Gotoba

抄録

本研究の概要は，以下の通りである．すなわち，大妻学校校主大妻良馬の祖先である大妻太郎兼澄公が御祭神となっている大妻神社でのこれまでの調査から，正史では，太郎兼澄は承久の乱（１２２１年）において，木曽川敗走後，山に入り果てたとされているが，大妻女子大学博物館の調査により，郷土史家小穴芳美氏（既に他界）による「生きて後鳥羽上皇とともに隠岐に流された」とする講演資料などが明らかとなり，また別資料（太郎兼澄公を主題とする筑前琵琶）から，承久記以外にも，太郎兼澄の承久の乱以後の行動の記載が示唆されてきた．そこで，これら資料を中心に，専門家への協力を仰ぎ，内容確認としての調査を行ったことが本研究の概要である．さらにこれまでの調査から，昭和３９年に大妻コタカが大妻神社拝殿改築を記念して植樹した杉の木を同定することができ，本研究年度にあたる平成２６年９月２３日，大妻神社において，大妻コタカ生誕１３０周年記念行事の一環として，植樹記念碑を多くの関係者に披露することができた．本研究の成果は，大妻学院史としての価値はもちろんのこと，太郎兼澄公のみならず後鳥羽上皇の晩年の歴史的事実にも係る内容を含むものであり，本研究成果の学術的価値は高いと考えている．

１．これまでの大妻神社に関する調査研究の概要

大妻女子大学博物館では，これまでに長野県松本市にある大妻神社の氏子の方々のご協力の元，大妻神社および大妻神社の御祭神の一人である大妻太郎兼澄公に関する調査を進めてきた．

大妻女子大学博物館には，大妻良馬が当時の氏子総代降旗七耕氏や小澤直太氏，芋草苑主人左三川好彦氏と交わした手紙や調査資料などが収蔵されており，これらの内容確認を行う過程で，郷土史家小穴芳美氏（既に他界）による「大妻太郎兼澄は生きて後鳥羽上皇とともに隠岐に流された」とする講演資料（平成１４年７月２１日（日）・於：南大妻集落センター・主催：大妻神社氏子総代）などが明らかとなり，また太郎兼澄を主題とする筑前琵琶のテープも発見され，これらから，承久記以外にも太郎兼澄の記載があり，承久の乱以後も太郎兼澄公は生きて後鳥羽上皇と行動を共にした可能性が示唆されてきた．

また，大妻神社に保管され，長く人目に触れることのなかった写真帳から，大妻コタカが昭和３９年に大妻神社拝殿改築を記念して植樹している写真を見つけ出し，その杉の木を同定することができていた．

２．本年度の調査研究の概要と成果

2.1.　大妻太郎兼澄のこと

本研究では，上記資料の確認とさらなる資料の発掘調査研究を行うために，川上元氏（元大妻女

子大学非常勤講師）ら長野県の郷土史に詳しい専門家らの紹介により，松本市のみならず上田市郷土博物館などの郷土史家らの協力を受け，最終的には，新装成った松本市文書館において小穴芳美氏が太郎兼澄公延命の根拠とした資料等を収集することができた．これが本研究の最大の成果と言える．

これは松本市文書館の専門職員小松氏の尽力によるところが多い．なおこの小松氏は小穴氏の弟子筋に当たる郷土史家である．

本研究の過程で得られた資料および既に入手している資料も含み，以下に列記する．但し，これら資料は，現在解読中であり，その内容すべてを現時点で掌理している訳ではなく，従って資料の関連性については把握できておらず，列記順序も不同である．本報告は予報の位置づけであることをお断りしておく．

○『保元物語　平治物語　承久記　　新日本古典大系４３』１９９２年７月３０日第一刷発行：岩波書店　校注者：栃木孝雄，日下力，益田宗，久保田淳
○『前田家本　承久記』平成１６年１０月５日発行　編者：日下力，田中尚子，羽原彩
○『承久記・後期軍記の世界』軍記文学研究叢書１０　平成１１年７月２０日発行　編者：長谷川端　発行：汲古書院
○『長野県の歴史シリーズ１６　図説・安曇の歴史　上巻』昭和６０年１月２２日　編著者：安曇歴史研究会　発行所：郷土出版社
○『長野県の歴史シリーズ１７　図説・安曇の歴史　下巻』昭和６０年１月２２日　編著者：安曇歴史研究会　発行所：郷土出版社』
○『大妻太郎兼澄と秦兼澄』私記本
（「明月記」「三長記」「愚昧記」「仲資王記」「後鳥羽院宸記」などに言及）
○『南安曇郡誌』昭和４３年３月２０日発行　編者：南安曇郡誌改訂編纂会　発行所：南安曇郡誌改訂編纂会（この中に，小穴芳美氏，小穴喜一氏，藤沢宗平氏らの執筆箇所があり，「大妻太郎兼澄の行方はどうなったか明らかでない．（略）土佐国の郷土大妻氏の家系によれば，深山に入って自害を思いとどまり，その後京都に帰り後鳥羽上皇に従って隠岐国に移り，延応元年（１２３９）に卒去したとされている．云々」の記載がある．）
○『建武中興を中心としたる信濃勤王史攷』　昭和１４年１月２２日　著者：信濃教育會　発行所：信濃毎日新聞株式会社
○『新編　信濃史料叢書　第七巻』昭和４７年５月２０日発行　編集者：信濃史料刊行会　印刷：信毎書籍印刷株式会社（この中の「木曽考」および「木曽考続編」を挙げ，承久の乱についても言及している）
○『新編　信濃史料叢書　第十二巻』昭和５０年１２月５日発行　編集者：信濃史料刊行会　印刷：信毎書籍印刷株式会社
○『信濃史料　第三巻』昭和２８年発行　発行者：信濃史料刊行会　印刷：信毎書籍印刷株式会社
○『史蹟名勝天然記念物調査報告　第拾七輯　長野縣』昭和１１年１０月１５日発行　（これを昭和５０年３月２５日　長野県文化財保護協会で復刻．「大妻氏居館址」の項あり）
○『角川日本姓氏歴史人物大辞典２０　長野県姓氏歴史人物大辞典』平成８年１１月８日発行　編著者：長野県姓氏歴史人物大辞典編纂委員会　発行所：角川書店
○『日本歴史地名大系　第２０巻　長野県の地名』１９７９年１１月２５日発行　平凡社
○『梓川村誌　歴史編』平成１６年３月３１日発行

これら成書になるものの他にも若干の資料を入手することができたが，内容については今後の研究に依る所が多いと言える．

また，筑前琵琶の録音テープは，太郎兼澄公の勤王の志士としての活躍を主題として新たに書き起こされたものであり，本研究の一環としてこれをＣＤ化することができたので，今後の研究対象としたいと考えている．

2.2.　大妻コタカの植樹した杉の木のこと

平成２６年３月の調査時点で，大妻神社社務所の押入れの中を掃除させていただいた際，古い写真帳を発見した．その中の１枚に，大妻コタカが杉の幼木を植樹している写真があった．氏子の方々に伺ってもどなたも記憶がないということで，いろいろに調査を進めると，昭和３８年９月２１日の大妻神社拝殿改築を記念して，翌昭和３９年３月２３日に大妻コタカが植樹している記念写真であることが判明した．この調査を行っていた平成２６年（２０１４）は，奇しくも大妻コタカ生誕１３０周年記念に当たる年であり，また植樹の

年からは丁度５０年目の節目の年であった．「コタカ先生が呼んだのかも知れない」とは，一緒に調査に当たった学芸員の言葉である．

３．本研究のまとめ

本報告は予報の段階である．しかし，この研究がさらに進んだ場合，その成果は，大妻学院史（大妻学）の価値としてはもちろん極めて高いと言えるが，更に，太郎兼澄公のみならず後鳥羽上皇の晩年の歴史的事実にも係る内容を含むものであり，その学術的価値は高いと考えている．今後もこの研究を継続し，研究成果は博物館展示等を始めとして広く公開し，資料調査研究という博物館業務の遂行のみならず，大妻女子大学学生，教職員また大妻関係者のみならず，学内外の方々の共有財産としたいと考えている．

謝辞

本研究は大妻女子大学戦略的個人研究費（Ｓ２６３５）の助成を受けたものです．

Abstract

New resources about Otsuma Taro Kanesumi (the ancestor of Otsuma Ryouma) were collected in this study. He was known as the old samurai followed to the retired-emperor Gotoba, and died at the Jyoukyu revolt, in 1221.　But new resources suggest/indicate his further activities with the retired-emperor Gotoba. The Japanese cedar which was planted by Otsuma Kotaka in 1964, was identified on this work, and we had the celemony to celebrate the 50th anniversary from the plantation year, in 2014, which was also the 130th anniversary of Kotaka's birth year.

（受付日：2015 年 12 月 9 日，受理日：2015 年 12 月 17 日）

真家　和生（まいえ　かずお）
現職：大妻女子大学博物館教授・学芸員

東京大学大学院理学系研究科修士課程修了　理学博士（京都大学）．
専門は自然人類学・生理学・博物館学．現在は，大妻女子大学博物館の学芸員として学史に関わる資料研究調査などにも焦点をあてた研究を行っている．
主な著書：自然人類学入門（単著，技報堂出版）
ミニマム生理学（共著，技報堂出版）
大学生のための博物館学芸員入門（共著，技報堂出版）